

乳・幼児のかかりやすい疾患

学校保健安全法によって出席・登園停止とされる病気以外にも、乳・幼児がかかりやすい疾患があります。それらの主な症状をご紹介します。



病名	主な症状
溶連菌感染症	発熱(38～39℃)、喉の痛み、イチゴ舌などが見られる。
マイコプラズマ感染症	しつこい咳と発熱。全身倦怠感が見られる。
手足口病	口の中の粘膜や手のひら、足の裏、足の甲などに水疱性の発疹ができ、1～3日間発熱することがある。
伝染性紅斑(リンゴ病)	発熱・倦怠感・頭痛・筋肉痛などの症状が見られ、その後、両側頬部や四肢に紅斑が生じる。
ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ・アデノウイルスなど)	激しい嘔吐や水様性の下痢が見られ、時に高熱を伴う。脱水をきたすことがある。 ロタウイルスは便の色が白色になることがある。
ヘルパンギーナ	高熱や咽頭痛が1～3日続く。喉に赤いポツポツ(粘膜疹)ができ、水疱から潰瘍になる。
RSウイルス感染症	発熱、鼻水などの症状ではじまる。乳幼児では咳やゼーゼー(喘鳴)がひどくなりやすい。
突発性発疹	生後6か月～2歳に発症しやすい。3日間程度の高熱の後、熱が下がるとともに紅斑が出る。